

令和5年度 第1回文化財保護審議会議事録

日 時：令和5年5月26日（金）午後3時～4時30分

場 所：豊田市役所南庁舎5階 南51会議室

出席者：委 員 田中祥雄会長、後藤嘉寿美副会長、阿部和俊委員、岡本大三郎委員、加藤真司委員、北村和宏委員、佐久間章郎委員、永田研委員、白鳳明人委員、水野功委員、水野半次郎委員、山口薫子委員、渡邊健二委員

事務局 森泰通美術・博物室長、児玉文彦文化財課長、梅村美紀子副課長、伊藤智子市史編さん室長、久野雄二担当長、井上美知代足助分室長、高橋健太郎博物館準備課長、鈴木なつみ副課長、村田眞宏博物館長予定者

欠席者：委 員 岩田敏也委員

資 料：令和5年度 第1回文化財保護審議会

<資料>（【資料1】～【資料7】）

議事録署名：渡邊健二委員、阿部和俊委員

1 生涯活躍部美術・博物室長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 諮問 天然記念物の指定解除について

事務局：諮問【資料2】

委 員：サザンカの寿命は一般的に70から80年である。このサザンカの樹齢は凡そ270年と推定され、天寿を全うしたと言えるだろう。

委 員：諮問については、次回答申するということが通例であるが、本件は如何ともし難いので、この場で結論を出したいと思うがいかがか。今回は、止む無しということでご承認いただきたい。

各委員：(承認)

(2) 令和4年度文化財課事業報告について

事務局：説明【資料3】

委 員：10ページのカモシカ件数が出ているが、市内で死亡しているカモシカの数ということでよいのか。

委 員：カモシカの死体については、文化財課の職員が現地に出向き、検死を行い、焼却処分を確認した後、文化庁に滅失届を提出している。

委 員：増えすぎて困っているのではないか。大変な作業だと思う。

委 員：松平地区の中垣内町古屋敷で測量調査をしているのか。

委 員：埋蔵文化財調査をしている。

委員：審議会の後でよいので詳細を教えてください。また、さきほど報告があった旧鈴木家住宅について、先日団体で見学させて頂いた。審議会委員の皆さんにもぜひ、ご覧いただきたい。また、市史については、25巻目となる総集編が刊行される。通史編を中心に2,300項目に及ぶ豊田の歴史について事典形式で刊行される。必ず立派な本になると思う。7月からの配布開始のようだが、もう少し手頃な価格だとうれしいところだが致し方ない。ほかにご意見はないか。

委員：3ページの組織編成について教えてください。これから博物館が立ち上がり、文化財課と博物館と美術館の3課に別れて三権分立状態になるということか。

事務局：そのとおりです。

委員：私は、会長に次いで保護審議会委員を21年間やらせていただき、諸先輩方と同様に悲願であった博物館建設までの長い道のりを見守り支援してきた。法的根拠に基づき博物館と文化財保護審議会が別れてしまうのは仕方がないことは理解しているが、委員として博物館開館を見届けられないのは非常に寂しく感じている。

事務局：委員の発言は、報告3「今後の文化財保護審議会と博物館事業の関りについて」の資料をご覧になってのご意見かと思うので、後ほどご質問を踏まえて説明させていただきますと思う。

委員：承知した。

委員：美術館や体育館、グラウンドが建設され、やっと念願の博物館が整備された。保護審議会委員は皆、博物館に熱い思いがあり熱烈な応援団となってきた。

委員：足助地区の文化財施設には、足助城、中馬館、旧鈴木家住宅があるが、所管課が博物館準備課と文化財課に分かれてしまい縦割りにならないか心配である。しっかり連携して事業をしていかないといけないと思うがいかがか。

事務局：施設には所管課が必要であり、展示や事業については、文化財課と博物館準備課が連携しながら進めていく予定である。今年度から、試行錯誤しながら進めていく事になると思うので、委員には事業を見守っていただきながら、引き続きご意見を頂きたい。

(3) 令和5年度文化財課・博物館準備課事業計画について

事務局：説明【資料4】

委員：博物館の今日現在の進捗状況について教えてください。

事務局：建築整備課によれば、建築工事は4月末の時点で進捗率50%と聞いている。

委員：博物館と文化財課の役割分担について、委員の興味が向いているように思う。表裏一体のような気がしている。心配事などご意見をいただけないか。

委員：博物館パートナーの募集という説明があったが、博物館職員の従事者数はどのように考えているのか。具体的に教えてください。職員を増やせば給与も増える。逆に職員が少ないと事業が進まない。凡その他の博物館と比較されていると思うが、数値的なものを含めどのように考えているのかお聞きしたい。

事務局：現状をご説明すると、美術館に比較すると事務を司る総務系の職員が少ない点

が課題である。施設管理については、警備員や建物を管理する業務について委託による対応をしていく。

委員：市の人事課はしっかりしているから心配ないと思う。

委員：やはり博物館工事がとても気になっている。美術館を訪れるたびに建設現場を確認している。ウッドショックなどの影響で工期は遅れていないか。

事務局：当初の建築工事契約期間は、令和6年1月末までであったが、埋設物等の処分の影響により、令和6年3月まで契約を延長している。開館時期については、2月にお伝えしたとおり令和6年4月に開館する予定である。

委員：本当に大丈夫なのか。コンクリートの枯らし期間についても関係してくると思うが、考慮されているのか。

事務局：枯らし期間への影響は無い。

委員：前回の審議会で岩田委員からご意見頂いた博物館敷地内の旧平岩家住宅と土蔵の配置について、少しは工夫できたのかどうか教えて欲しい。岡本委員、もしご存じであれば教えて欲しい。

委員：土蔵の位置は若干移動することが出来たと聞いている。岩田委員も現在の対応を承知していると思う。

事務局：前回の時に岩田委員がかなり心配しておられたので気になっていた。少しでも改善されているのならよい。

委員：博物館敷地に入ってきたとき、土蔵の背側が見えるのが残念ではあると思う。

委員：博物館パートナーという言葉が今回、初めて出てきたかと思うが、協賛してくれる方なのか、どのような人物をいうのか、仕組みを含めて教えて頂きたい。また、博学連携事業について前回の審議会で申し上げたが、子ども会での利用についても受入れをお願いしたいと伝えていたがどのようになっているか教えてほしい。

委員：とよはくパートナーは、個人と企業や有志サークルなどの団体の2種類を想定し募集する予定である。個人は、通常ボランティアという言葉を使うことが多いが、博物館を一緒につくり、つないでいこうというメッセージを込めて、パートナーという言葉がふさわしいと判断した。企業、有志サークル、団体については、協賛金を提供頂くものではなく、えんにち空間やセミナールーム等でそれぞれの企業の姿を発信して頂きたい。

子ども会等団体利用への対応については、子ども会は学年が多岐にわたることから、博学連携で実施する内容での対応をそのまま当てはめることはできないが、屋内外での活動や自然観察等の、学年に関わらず実施できる内容等で対応していきたい。またパートナーの方とも連携しながら考えていきたいと思えます。

委員：博物館とは直接関係ないが、地域資料館の閉館について、もともと地域資料館にあった資料の一部は地区内の他の施設で展示し、残りは博物館や資料館に保管するという考えでよろしいか。

事務局：委員ご指摘のとおりです。足助地区では中馬館という施設があり、今も足助の歴

史を展示している。旭地区でも地区内の公共施設において一部資料の展示を予定している。資料については、博物館や館外倉庫で保管していく予定である。

委員：足助と旭の資料館が閉館ということだが、閉館後の施設について心配なことがある。足助では、中馬のおひなさんでまちなかに展示する土雛を足助資料館の倉庫で保管している。博物館準備課と文化財課に分かれ、地域資料館の再構築は博物館準備課がおこなっているようだが、足助資料館や旭資料館は組織からなくなるということか。

事務局：条例上からなくなるということです。ただし、展示は地域の公共施設の一部で展示されていくということです。

委員：閉館は足助と旭ということであるが、稲武と藤岡の方はどのようになるのか。

事務局：現在調整中です。

委員：地域資料館と博物館は長く協議してきている。妥当で適切な対応をお願いしたい。

事務局：最後に令和5年度の文化財課事業である名木愛護協会への天然記念物の点検依頼について、白鳳委員にご説明いただきたい。

委員：名木愛護協会という団体があり、市内で約250本ほど、名木を指定させて頂いている。同じ樹木である天然記念物についても、現況調査を実施しまとめてはどうかということである。

事務局：市域も広いので、長くかかりそうである。

4 報告

(1) 令和4年度購入資料について

事務局：説明 【資料5】

〔意見・質問〕

無し

(2) 豊田市「綾渡の夜念仏と盆踊」保存活用推進協議会の設立について

事務局：説明 【資料6】

〔意見・質問〕

無し

(3) 今後の文化財保護審議会と博物館事業の関りについて

事務局：説明 【資料7】

〔意見・質問〕

委員：遺漏のなきよう課を分けたことの弊害がないよう、文化財課と博物館準備課が協力して進めて頂きたい。

令和 年 月 日
豊田市文化財保護審議会

印

豊田市文化財保護審議会

印